

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 文化・スポーツ振興グループ

基本事項	事務事業名	市民文化芸術振興事業				整理番号	0202		
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	▼	予算目	2 款 7 項 1 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規			
		節 第5節 文化活動の充実	▼	事業区分	市民サービス事業				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	市民による文化の創造や発表の機会の設定や、支援をしてほしい、との要望から、市民音楽祭(32回)や市美術展(51回)、市民文化講座(200回)、梅林俳句会(63回)が開催されるとともに、文化関係団体への補助を行っている。				計画期間	始期	昭和	年から
						終期	平成	年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	島原市民全体を対象とし、それぞれの文化活動における自己実現をとおして、市全体の文化の向上を図る。							
	目的達成のための手段・方法	市民それぞれが文化活動に参加できるよう、市民音楽祭では、3日間にわたり、小中学生の部、洋楽の部、邦楽の部を開催し、多様な音楽活動に対応している。また、市美術展では、市民の作成した美術工芸品を5部門(書・絵画・写真・工芸・陶芸)に分け無審査、無料で受け付け、展示している。それぞれ、実行・運営委員会を開催し、より市民に親しまれるよう内容を検討している。							
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名 称 等 ( 内 容 )		単位	22 年度	23 年度	24 年度		
		①市民音楽祭 来場者の増加。		目標 実績 達成率	人	3436	3424	3700	
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①市民音楽祭実行委員会の開催		目標 実績	回	4	4			
	②市美術展 来場者の増加。		目標 実績 達成率	人	1279	1155	1200		
				人	1155	1163			
				%	90.3	100.7	0.0		
事業費等の推移	年度		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画	
	①直接事業費(千円)		3,005	3,096	3,383	3,325	3,580		
	財源内訳	国 県 支 出 金							
		地 方 債							
		そ の 他							
	一 般 財 源		3,005	3,096	3,383	3,325	3,580	0	
②従事職員給与費 b1×b2		4,292	4,297	4,301	4,342	2,183	0		
従事職員数(人) b1		0.60	0.60	0.60	0.60	0.30	0.00		
職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236	7,277			
事業費合計 ① + ②		7,297	7,393	7,684	7,667	5,763	0		

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 少子高齢化等の影響で文化活動に関係する市民の数は減少傾向にあるが、文化事業の必要性に変わりはない	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 以前から、なるべく市民による運営というのを目指し、音楽祭は当日の運営は、実行委員会ですべての委託を依頼できる段階にはない。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図れないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 それぞれの事業で、多くの市民を取り込む努力をされており、今後とも運営委員会などで意見を出し合いながらよりよい運営を行う。	A
有効性	④事業の実施により所期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない それぞれの事業が長く続いているが、それなりの入場者等を得ており、市民文化の向上に寄与していると思われる。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 運営委員会等でより良い運営について協議を行う。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 コスト面ではすでにかなり削減しているため、内容の充実に取り組みたい。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 それぞれ分野が異なるので統合等は難しいと思われる。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 音楽祭の受付など、音楽連盟などグループ内外の協力を得ており、問題はない。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 市全体の文化振興を図るという観点から、参加・入場料等は徴収していないので、広く市民に門戸を開放しているものと思っている。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
判定評点平均 A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			3.00

◎ 総合評価

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	市民の文化の向上のため、音楽、美術、文芸など多様な事業を限られた予算内で行っており、苦情等もないことから、市民には満足いただいているものと考えている。
------	--	------	---

今後の課題及び改善策、見直しの状況  
 (実施上の課題等)  
 市庁舎工事に伴い島原文化会館の使用が制限されると、会場が制約されるので、25年以降の開催について今から検討しておきたい。

・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。  
 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	